



初等中等教育国際教育推進事業
熟議「学校の国際教育への提言」
全国報告会「第18回 iEARN 世界大会・第15回ユースサミット台湾」
JEARN 10周年を祝う

11月26日土曜日 東京!

事業計画書

- 1) 趣旨
- 2) 概要
- 3) プログラム
- 4) 実施要綱
- 5) 参加者へ配布資料
- 6) 参加申込書 (11月23日〆切り)別添

特定非営利活動法人グローバルプロジェクト推進機構

JEARN

初等中等教育国際教育推進事業
熟議「学校の国際教育への提言」
全国報告会「第18回 iEARN 世界大会・第15回ユースサミット台湾」
JEARN 10周年を祝う

1) 趣 旨

昨年のリアル熟議「グローバル社会を生きる人材の育成と学校教育」に続いて、鈴木寛氏をゲストに「学校の国際教育への提言」を開催します。日本の学校には、特色あるローカルな生徒たちの幅広い研究や活動があり、時代の新しいテクノロジーや学校のICT環境を使ってiEARNなどのグローバルな教育ネットワークにログインする仕組みを整えれば、教室から世界へ発信し海外の生徒と日常的に協働学習ができます。現今のエキストラカリキュラムから小・中・高の普段のカリキュラムへ、今回の熟議は国際教育の次のステップをビジュアル化します。

また、ICTを活用して展開するグローバルな教育ネットワーク iEARN (アイアーン: International Education And Resource Network) の第18回世界大会並びに第15回ユースサミットの報告をします。今年は台湾で開催され日本からは過去最高で50名もの教員や生徒が参加しました。発表数も多く、彼らが参加42カ国の生徒や教員と交わって過した一週間で何を体験し、どんな貢献をしてきたかを聞いてください。

続いて JEARN 10周年を記念して、多彩な JEARN 活動紹介をします。

これらは、iEARN ネットワークやプロジェクトが初等中等教育に於ける国際教育に広く活用され、学校の国際教育実践力向上と、引いては国際教育を通した「日本の人づくり」を目的とするものです。

2) 概要

事業名	初等中等教育国際教育推進事業 熟議「学校の国際教育への提言」 ゲスト 鈴木寛前文部科学省副大臣 全国報告会「第18回 iEARN 年次世界大会・第15回 iEARN ユースサミット台湾開催」
日程	2011年11月26日(土曜日) 10:30-17:00
開催場所	東京 内田洋行ユビキタス協創広場 CANVAS http://www.uchida.co.jp/company/showroom/canvas.html 東京都中央区新川 2-4-7
主催	特定非営利活動法人グローバルプロジェクト推進機構 JEARN

後援	文部科学省・兵庫県教育委員会・社団法人日本教育工学振興会
協力	株式会社内田洋行
参加対象	教員／生徒／教育委員会／学生／保護者など70名
事務局	<p>JEARN 事務所 office@jearn.jp tokyo@jearn.jp 〒650-0003 神戸市中央区山本通3丁目19番8号 海外移住と文化の交流センター 3F 活動支援室2 Tel&Fax 078-862-8288</p> <p>JEARN 高槻事務所 〒569-1036 大阪府高槻市塚脇1丁目11番25号 Tel/Fax0726-80-2115</p>

3) プログラム

- 10:00 受付開始
- 10:30 — 12:30
- 鈴木氏 Talks 20分
- iEARN・JEARN 生徒と教員による体験発表 20分
- 学校の国際教育への提言 熟議 60分
- まとめ 20分
- 12:40 — 13:40 ランチタイム
- 「JEARN 10周年を祝う」
- 14:00 — 17:00
- iEARN 世界大会・ユースサミット台湾参加報告
- JEARN 2011年度活動紹介
- 防災世界子ども会議、Hiroshima for Peace, 大正琴、
Writing message, アイアーン沖尚、Teddy Bear Project,
Adobe Youth Voices, Pen Friend Club, Origami,
ケニア スクール プロジェクト、日韓高校生交流事業、
ふれあい日本語教室、ソーラークッキング、
その他会員の活動

4) 実施要綱

熟議「学校の国際教育への提言」実施要綱

JEARN は、2003年7月第10回 iEARN 国際会議 in Japan を開催し、海外・国内の約1000名の教員や生徒が集まりました。その際のポスターは現在も事務局に貼ってありますが、そこには「世界各国と日本の教育者が集い、世界の子供達のための【教育】の新しいビジョンを拓く」“At the Crossroads: Finding Future Milestones”, 「グローバル人材育成を目指した教育国際会議です！ iEARN では、95カ国（現在は130カ国）の子どもたちがインターネットで国際協働学習に参加し、各国首脳も注目する世界で最大の教育ネットワークです」と記載されています。

この路線を貫いてきた JEARN は、昨年2010年11月当時の文部科学副大臣鈴木寛氏を迎えて「グローバル社会を生きる人材の育成と学校教育」熟議を開催しました。1年後の今月、再び鈴木寛氏を迎えて、昨年度の熟議4グループのテーマ毎の検討内容、iEARN 世界大会や種々の iEARN プロジェクト体験者の発表、文部科学省「国際交流政策懇談会最終報告書」などを土台に、その上に「学校の国際教育」を築いていただく熟議を開催いたします。実施に当たって簡単な要綱をここに記します。

1) テーマ

「学校の国際教育への提言」

2) 熟議スタイル

コーディネータ、記録者を含め、1グループを10名内外で構成とする。

参加者は事前登録する。

登録に当たり、本人の属性は次の区分に従う。

「教育関係者」：教員、ALT、教育委員会、大学研究者、学会、塾関係者

「保護者・ボランティア」：保護者、国際教育ボランティア、NPO 活動参加者

「企業・公益法人」：国際教育関連の協会等組織・基金・関連企業、ICT 関連企業

「学生」：中学生以上の生徒や、高等教育機関・各種学校の学生

3) 各テーブル構成

各テーブルメンバーの構成は、原則として次のとおりとする。

「コーディネータ」 1名、

「教育関係者」 3名

「保護者・ボランティア」 2名

「協会・基金・企業」 2名

「学生」 1名

「書記」を兼務する JEARN 会員 1名

4) **サブテーマ** (予定です。参加数などでテーマを絞ることもあります)

具体的には、文部科学省発行「国際交流政策懇談会最終報告書」(平成23年3月)の特に2. グローバル化に対応する教育の提供 (1) 10年後に成人する現在の子どもたちに対して、(5) 教職員に対して、(6) **ESD** による国際社会で活躍する人材の育成、の記述を、より実践的で全ての学校の子どもたちを対象とした「国際教育」への実践政策提言とするために、次の7つのサブテーマを立ち上げました。それぞれのサブテーマを学校で可能にするための「課題」とその「解決」をグループで討議しまとめてください。

ここに上記最終報告書から、国際教育全般に関係する記述、サブテーマに関連する記述を抜粋しました：

——「我が国がグローバル化時代をたくましく生き抜くことをめざして」—国際社会をリードする人材(人財)の育成—

——「知の国際化」をもたらすのはまさに人材であり、昨今言われているグローバル化した国際社会をリードする人材は、我が国の将来を左右する**最重要課題**である。

——我が国固有の文化や歴史から培われた独自の価値を国際社会で臆することなく伝えるという姿勢が重要なことは、改めて特筆する必要がある。

——幼年期から青年期に亘るまであらゆる教育段階において、グローバル化に対応する教育を提供する必要がある。

——米国への教員派遣

——中国・韓国の教職員交流

——我が国では、ユネスコスクールを **ESD** の推進拠点として位置づけ、その加盟校増加。ネットワークの強化に取り組んでいる。現在279校、目標500校

——**最終ページのまとめ：**

グローバル化時代において我が国が発展するには不断のイノベーションの前提となる

「知の国際化」を支えるための多様な人材の育成が必要。

具体的施策の実施に向けた提言

提言2. 学校の国際化

(1) 教員の海外経験の拡充

○若手英語教員の米国派遣の開始

○青年海外協力隊の現職教員特別参加制度の拡充(応募資格年齢の引き上げ私学まで対象を拡大)

○日中、日韓、日米間の教員交流事業の推進

(2) インターナショナルスクール、国際バカロレアへの対応

○1条校化を希望するインターナショナルスクールへの必要な情報提供

○国際バカロレアの全国への周知・普及の促進

解決

グループ6 「グローバルな教育国際会議への教員・生徒の派遣を可能にする」

課題

解決

グループ7 「国の国際教育に関する予算化を可能にする」

課題

解決

.....

4) 案内方法

JEARN ML と Web、同会員や学会、パートナーシップ関連の ML と Web、各県・政令指定都市・地方自治体の教育委員会へ郵送など、インターネットと郵便で案内する。

5) 参加登録方法

属性区分毎に定員を定め、第一希望から第三希望までのサブテーマ参加希望を提出してもらい、事務局にて先着順に電子メールで受け付ける。✂切り 11月23日

6) 報告

後援先である文部科学省・兵庫県教育委員会・社団法人日本教育工学振興会に対して報告を行う。報告は JEARN ウェブでも公開し、リアル熟議を案内した先へ連絡する。

5) 配布資料

- 国際交流政策懇談会最終報告書
- 昨年熟議グループまとめ
- iEARN・JEARN について
- JEARN 10 周年の記録
- iEARN 世界大会（台湾開催）参加報告書 ほか

以上